

# 帯広市産業振興会議 市長意見交換会 次第

日時：令和元年 8 月 5 日（月）14:00～

場所：帯広市役所 10 階 第 6 会議室

## I. 開 会

## II. 会長挨拶

## III. 市長挨拶

## IV. 協議

- ・ 各部会議論の整理について

## V. その他

## VI. 閉会

配付資料	・ 資料 1	帯広市産業振興会議 開催状況
	・ 資料 2	各部会 論点に対する対応方向（概要版）
	・ 参考資料	帯広市産業経済実態調査について（速報値）概要版

## 帯広市産業振興会議 開催状況

帯広市産業振興会議		
	30.05.08	専門部会・テーマについて 専門部会・委員について 今後のスケジュールについて
三部会合同会議(全体会議)		
①	30.08.09	帯広市産業振興ビジョンの策定について 講演:「地域産業の未来をひらく帯広市中小企業振興基本条例」 講師:東洋農機株式会社 取締役相談役 渡辺 純夫 氏 今後のスケジュールについて
②	30.09.04	帯広市産業振興ビジョンの策定について 10年間の取り組みについて 現状と課題について アンケート調査について
経営基盤・人材部会		
①	30.09.04	自らの経営、取り組みについて この(10年)間の変化について 10年後の経営、取り組みについて
②	30.11.14	10年後を見据えた経営上の課題について
③	31.01.16	十勝産業の10年後のあるべき姿と課題について
④	31.02.22	十勝産業の10年後のあるべき姿と課題について
⑤	元.06.05	十勝産業の10年後のあるべき姿と課題について
ものづくり・販路拡大部会		
①	30.09.04	自らの経営、取り組みについて この(10年)間の変化について 10年後の経営、取り組みについて
②	30.10.01	自らの経営、取り組みについて この(10年)間の変化について 10年後の経営、取り組みについて
③	30.10.31	今後の議題・テーマについて
④	30.11.21	地域資源を活かした付加価値の創出、向上について
⑤	31.01.18	地域資源を活かした付加価値の創出、向上について
⑥	31.02.26	地域資源を活かした付加価値の創出、向上について
⑦	31.03.22	地域資源を活かした付加価値の創出、向上について
⑧	元.06.27	ものづくり・販路拡大部会における議論のまとめ(案)について(たたき台)
集客・交流部会		
①	30.09.04	自らの経営、取り組みについて この(10年)間の変化について 10年後の経営、取り組みについて
②	30.12.26	現状の取り組み、課題について
③	31.02.18	現状の取り組み、課題について
④	31.03.07	現状の取り組み、課題について
⑤	元.06.27	集客・交流部会における議論のまとめ(案)について
正副部会長会議		
①	30.10.18	今後の進め方について スケジュールについて 議事録の共有について
②	30.12.03	各部会の進捗等について 産業振興ビジョン・産業振興の基本方向について 十勝・帯広の産業の状況について
③	元.07.04	各部会議論の整理について 今後のスケジュールについて

帯広市中小企業振興基本条例施行10周年記念シンポジウム

29.12.06	<p>基調講演:「中小企業振興基本条例を軸にした地域産業政策の展開」 講師:慶應義塾大学 経済学部 教授 植田 浩史 氏</p> <p>パネルディスカッション 東洋農機株式会社 取締役相談役 渡辺 純夫 氏 税理士法人竹川会計事務所 代表社員・公認会計士 竹川 博之 氏 国立大学法人帯広畜産大学 学長補佐・教授 金山 紀久 氏 司会:植田教授</p>
----------	--

## 経営基盤・人材部会 論点に対する対応方向(概要版)

## 1 部会開催の概要

## (1) 部会の概要

今後も「農業」を基盤とした地域であることを共通認識として、10年後のあるべき姿を想定しながら、経営基盤の強化、人材確保・育成について、どう進めれば良いか議論し、8つの論点に整理し、基本的な考え方と具体的な施策案をまとめた。

## (2) 実施期間

平成30年9月4日（全体会議）～令和元年6月5日にかけて、計5回開催。

## (3) 実施体制

産業振興会議の委員及び専門部会委員の計9人で構成し、部会長・副部会長を選任。

部会長 佐藤 聡（株式会社佐藤工務店）

副部会長 兼子 賢（サンテクノ株式会社）

委員 金尾 泰明・志子田 英明・井上 理 合田 倫佳  
鈴木 修士・谷脇 正人・内木 真紀衣

## 2 各論点における議論と基本的な考え方

## ① 人手不足対策について

## &lt;委員からの主な意見&gt;

- 生産年齢人口の減少により、人手不足は深刻な課題であり、高齢者、女性、外国人など様々な人材の活用とその労働環境の整備が必要。
- 若手人材の確保のため、十勝で働く魅力や価値について、相手に応じて伝えることが重要。

## &lt;基本的な考え方&gt;

- 高齢者など多様な人材の活用及び就労環境の整備や労働生産性の向上に取り組む必要がある
- 域外からの人材の確保のための取組みに工夫が必要。

## 【具体的な施策】

- 伝える世代に応じた効果的な情報発信
- 若手人材の育成・定着に向けた具体的手法の検討
- 高齢者の就労促進や外国人材活用のための環境整備
- 女性の労働環境の整備の促進
- 生産性向上に資する先端設備導入に対する支援

## ② 地域の経済循環について

## &lt;委員からの主な意見&gt;

- 豊富な農畜産物を加工し、付加価値を付けて販売することにより、地域によりお金落ちることになる。
- 食品加工業が足りないと感じる。
- 地元企業から購入しようという意識を市民に広げることが必要。

## &lt;基本的な考え方&gt;

- 農業を基盤とする十勝においては、それに付加価値を付ける食品加工をさらに充実させ、関連企業への波及効果や「ヒト・モノ・カネ」の域内循環を生み出すことが必要。
- 域内においても、地元企業から購入しようという意識を広げることが必要。

## 【具体的な施策】

- 付加価値向上に取り組む事業者への支援
- 地産地消の推進

### ③持続可能な経営について

#### <委員からの主な意見>

- 産業形態などの変化に対応できるよう先進地事例や専門的ノウハウなど、**必要な情報にアクセスできる環境**があると良い。
- お互いの力を合わせて産業を発展させていくという**前向きな M&A の使い道**を本格的に考えていくべき。

#### <基本的な考え方>

- 企業の中核を担う者を育成する研修や交流の機会の提供が重要
- M&A に対する**知識の普及と相談支援体制**の構築が必要
- 先進地事例や専門的知識などの有益な**情報を得やすい環境づくり**が必要。
- 起業や第二創業など**新たな仕事を生み出す**ことが重要。

#### 【具体的な施策】

- 人材育成、事業創発、資金調達等への支援
- 必要な情報を取得しやすい環境づくり
- 事業継承等に関する相談支援及び支援ネットワークの構築

### ⑤自然エネルギー、再生可能エネルギー等の活用について

#### <委員からの主な意見>

- 再生可能エネルギーを産業として位置づけ、**持続化に向け検討**すべき。
- 十勝にはバイオマスが豊富にあるので燃料用以外にも**有効活用**できると良い。
- エネルギーの**地域循環の仕組みづくり**が必要

#### <基本的な考え方>

- 豊富な自然エネルギーや再生可能エネルギーを**地域で活用、循環できる仕組みづくり**が必要
- 自然エネルギーや再生可能エネルギーに取り組む事業者が増えていく中、十勝で**一体となって進めていく**必要がある。

#### 【具体的な施策】

- エネルギー資源の効果的活用の検討

### ④AI、IoT 等の導入・活用について

#### <委員からの主な意見>

- 先進技術の導入に伴い、それを**使いこなす人材、開発できる人材**が必要
- 業種の垣根を越えて利用**できる環境づくりが重要
- 先進地で技術を学び、十勝の農業に合うものに組み替えて活用できる**技術開発**をするベンチャー等と提携・協力して地域の農業を発達させていくことが重要。

#### <基本的な考え方>

- 技術の進歩に合わせた人材の育成や専門家など外部**人材の確保**が必要
- スマートアグリについて、先進地から技術を学び、専門家等と連携し、**十勝に合った形**で推進していくことが重要。

#### 【具体的な施策】

- AI、IoT 等生産性向上に取り組む事業者への支援
- 先進技術導入の促進
- 先進技術導入に関する情報発信、相談体制の充実

### ⑥情報発信について

#### <委員からの主な意見>

- 産業・経済は分かりにくいので、**わかりやすい言葉**に変換して伝えることが重要
- 関係者が行う十勝帯広の PR よりも、住んでいる学生が友達に発信するような**第三者が情報発信**することの方が効果的で信憑性が高い。
- 小規模事業者が情報共有できる**プラットフォーム**があると良い。

#### <基本的な考え方>

- 情報を伝えたい相手に**伝わりやすいように工夫**することが必要
- 管外からの学生や来街者に十勝の魅力を**発信してもらう仕掛け**が必要
- 情報に**たどり着きやすくする**ための仕組みが重要

#### 【具体的な施策】

- 効果的な情報発信
- 第三者による情報発信の仕組みの検討
- 必要な情報を取得しやすい環境づくり（再掲）

## ⑦連携について

### <委員からの主な意見>

- すでに様々な分野で連携しているが、業種間、企業間での連携強化が求められる。
- 人材の採用・育成や女性・外国人の活用などは連携することで効果的な課題解決につながる。また、物流などの面でも共同化や地域商社などによりコスト削減が可能である。

### <基本的な考え方>

- 関係機関・団体との連携した取組みに加えて、異業種間の連携強化が求められる。
- 業種間の連携のほかに、個別企業間の連携のための情報共有、マッチングが必要。

### 【具体的な施策】

- 連携を進める機関・団体への支援
- 連携に取り組む企業のマッチングについての検討

## ⑧その他(中心市街地、交流の場等)について

### <委員からの主な意見>

- 地域の活性化を図るためには、「交流人口を増やす」ことが必要であり、「人が集まる場所」を作ることも重要。
- 少子化、人口減少の中、病院・老健・幼稚園・保育園を一括化して、子どもから高齢者まで、人でにぎわう憩いの場を作ることでもあるのではないかと。
- 大学のキャンパスや留学生が安心して交流できる場所があると良い。

### <基本的な考え方>

- 学生や外国人の活動拠点が市内中心部から離れており、中心市街地に人が集う場所を設け、交流を促進することが必要。
- 子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用できるスペースなど人で賑わう場所が市内中心部に必要

### 【具体的な施策】

- 中心市街地活性化基本計画に基づく取組みの実施
- 起業・創業の拠点整備、運用

# ものづくり・販路拡大部会 論点に対する対応方向(概要版)

## 1 部会開催の概要

### (1) 部会の概要

「地域資源を活かした付加価値の創出、向上」を目標として、

①新しい製品(商品)・技術・サービスの開発

②新しい売り先、市場の開拓、拡大

を行うためにどうすれば良いか、8つの論点でそれぞれ議論を行い、基本的な考え方と具体的な施策案を整理した。

### (2) 実施期間

平成30年9月4日～令和元年6月27日にかけて、計8回開催。

### (3) 実施体制

産業振興会議の委員及び専門部会委員の計9人で構成し、部会長・副部会長を選任。

部会長 河西 健一(栗林建設株式会社)

副部会長 田中 克宜(株式会社マテック)

委員 小倉 修二・貴戸 武利・伊豆倉 寿信・佐々木 章哲・

中田 隆之・萩原 一宏・濱田 安之

## 2 各論点における議論・基本的な考え方・具体的な施策

### ①業種・成長分野

<委員からの主な意見>

- 第一次産業関連分野は、関連企業が集中しており他地域に比べて優位性がある。
- 国内外の政策や、相場などの外部要因に左右されることがある。
- TPPやEPAで関税が安くなり、外国の良いものが安く入ってきているものがある。一方、世界的な需要の高まりなどで、価格が上昇しているものもある。

<基本的な考え方>

- 他地域に比べ優位性のある、第一次産業及びその関連分野を中心に地域経済の成長、付加価値向上を図る。
- 国内外の動向・環境変化などにより事業者を取り巻く環境は日々変わっており、様々な状況に対応できるよう企業体力の強化が必要。

【具体的な施策】

- 新たな商品・技術・サービス開発、販路拡大等への支援
- 設備導入への支援

### ②経営環境・インフラ

<委員からの主な意見>

- 家畜排せつ物処理をバイオガスプラントで行う計画を立てていたが、電気系統への接続にストップがかかり、規模拡大が困難になっている。
- 土木業は仕事のほとんどが公共事業であることから、景気等による予算規模の変動が大きいと、人材確保が難しく、地域インフラの維持が困難になってくる。
- 事業規模の拡大時に、土地を新たに買って建物を建てようというモチベーションに繋がる施策があると良い。
- 会社の課題解決や、自社に付加価値をつけることを目的としたM&Aを検討。

<基本的な考え方>

- 経営環境の変化への対応、特に地域エネルギーの活用や外国人労働者も含めた人材確保などの課題への対応が必要。
- 安定して事業を行うため、自然災害リスクへの対策を講じるとともに、事業用地の確保や地域経済を支えるインフラの維持・整備が必要。
- 事業承継、M&Aが注目されており、付加価値向上を含めた対応が必要。

【具体的な施策】

- 地域エネルギーの活用に向けた課題検討を行う場の設置
- 経営環境に影響を及ぼす革新技術への対応を検討
- 地域経済活動を支えるインフラ等の維持・整備
- 経済活動に必要な土地の流動性の確保
- 事業承継やM&Aに関する相談・マッチング機能の構築

### ③技術・生産力

#### <委員からの主な意見>

- 豆腐業界では、十勝産大豆の生産量が多く、類似商品があると言われる。また、高脂肪豆腐という新技術を用いた商品が販売されたが、販売価格があがらない。
- 働き方改革の影響で、生産性をあげるために業務内容を見直す必要がある。
- 若い人達への技術継承がうまくいっていない。

#### <基本的な考え方>

- 十勝は食に関するブランドイメージが高いが、全国で使用されることでコモディティ化が進んでおり、そこから脱するための方法を検討。
- 生産性向上に資する先端技術や設備を導入するための環境整備が必要。
- 人手不足や社内システムの未整備など、技術継承の課題に対する対応が必要。

#### 【具体的な施策】

- 新たな商品等のアイデア創発に資する場の構築
- 設備の貸出や技術指導等による事業者への技術力提供
- 技術蓄積・継承のための仕組構築に対する支援
- 新たな商品・技術・サービス開発への支援（再掲）
- 設備導入への支援（再掲）

### ⑤マーケティング

#### <委員からの主な意見>

- 北海道のイメージにあぐらをかいており、全国より取組が遅れている。
- マーケティングが足りない。良いものを作る意識はあるが、お客様にとっての価値や、どうやって利用してもらうかの考えが足りない。
- マーケティングを実際にやる場合、どこから手を付けて良いかわからない。
- 経営者向けのマーケティングと、従業員向けのマーケティングは違うと思う。

#### <基本的な考え方>

- マーケティングは重要であり、経営者や従業員の意識改革が必要。
- 中小企業が最初の一步を踏み出しやすい仕組み・支援が必要。

#### 【具体的な施策】

- 事業者がマーケティングを学ぶ場の構築
- マーケティングに必要なデータ収集・利活用の支援
- マーケティングに関する相談への対応
- マーケティングに取組む事業者への支援

### ④業種・成長分野

#### <委員からの主な意見>

- 6次産業化に取り組む生産者同士の繋がりで、取引先を紹介する動きが出てきている。顔が見える関係同士なので話がうまくいくことが多い。
- 十勝出身でない外部の人と繋がると、全然違う視点でものを見ており面白い。
- 目的によって様々なメンバーや集まり方での異業種交流があって良いと思う。
- 連携により様々な商品を開発しているが、ヒット率が低い。

#### <基本的な考え方>

- 連携は新事業や新商品の開発、販路拡大など様々な効果があることから、新たな連携を生み出したり、これまでの連携をより強化することが重要。
- 連携が良い成果に結び付かない場合もあり、付加価値向上に繋がる連携のあり方を検討。

#### 【具体的な施策】

- 事業者同士が連携しやすい環境の整備
- 連携を求める事業者の相談対応、コーディネート
- 効果的な連携・マッチング手法の検討
- 事業者が連携して行う事業に対する支援

### ⑥ブランド化の促進

#### <委員からの主な意見>

- 自社の認知度が高まることで、採用活動にも良い影響を与えている。
- 商品ブランド、会社ブランド、地域ブランドの3つがあると思うが、自社では地域ブランドにあぐらをかいていた。
- ブランド化が価格にあまり反映されていない。
- 最近ではカーボンオフセットなど、環境に配慮して作るというプロセスもブランドになると思う。十勝は再生可能エネルギーが豊富で、可能性はあると思う。

#### <基本的な考え方>

- 地域ブランドの維持・向上に加え、商品ブランド、会社ブランドの認知度向上が必要。
- ブランド力を商品価格や販路拡大に繋げるための取組が必要。

#### 【具体的な施策】

- 食の安全を確保するための取組への支援
- 社会動向と連動したブランド認知向上の取組
- 地元事業者や商品の情報発信支援
- ブランド力の強化に関する取組への支援



## ⑦知的財産保護・活用

### <委員からの主な意見>

- 十勝の人はものづくりを頑張っているが、商標などの知的財産には関心が薄く、外に出た時に心配。
- 知財に積極的でなくても良いが、自分の身を守れるようになれば良い。

### <基本的な考え方>

- 知的財産を活用し、自社の権利を保護する意識の醸成が必要。

### 【具体的な施策】

- 知的財産に関する相談窓口の設置
- 知的財産に係るセミナーの実施
- 知的財産取得に係る助成
- 知的財産の活用に関する普及啓発

## ⑧経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)

### <委員からの主な意見>

- 大都市圏や札幌圏の業者と比べ、情報収集力が低い。
- HACCPなど、現場でやらなければならないルール等が増えており、現場の人間に落とし込むのが大変。
- 働き方改革への対応を業界として取り組んでいかなければならない。
- 技術だけでなく、道德面も含めた自社の社員教育制度を確立する。
- 人材確保のために、社員寮取得に対する助成ができないか。

### <基本的な考え方>

- 自社の経営資源をどう付加価値向上に繋げていくか、また経営資源を更に強化するためにはどうすれば良いか検討が必要。
- 大都市圏に比べて情報収集・発信力が低いという課題の克服。
- 効果的な人材確保や育成方法を検討。

### 【具体的な施策】

- セミナーやメールマガジン等による情報発信
- 人材育成の支援
- 人材確保に対する取組みへの支援
- 経営資源強化に係る設備投資に対する支援

# 集客・交流部会 論点に対する対応方向(概要版)

## 1 部会開催の概要

### (1) 部会の概要

「集客・交流を通じた中小企業の振興」をテーマとして、

- ① 観光客誘致の推進による外貨の獲得
- ② 地域内の人材確保、地域外からの人材獲得

を行うためにどうすれば良いか、各委員の立場などから議論を行い、議論を踏まえ基本的な考え方と具体的な施策案を整理した。

### (2) 実施期間

平成30年9月4日（全体会議）～令和元年6月27日にかけて、計5回開催。

### (3) 実施体制

産業振興会議の委員及び専門部会委員の計8人で構成し、部会長・副部会長を選任。

部会長 高原 淳（ソーゴー印刷株式会社）

副部会長 大宮 美紀子（大宮事務所）

委員 佐藤 憲・井田 芙美子・木野村 英明・坂口 琴美・杉山 雅則・千葉 和也

## 2 各論点における議論と基本的な考え方

### ① 十勝・帯広の魅力発信

<委員からの主な意見>

- 十勝・帯広は「何の先進地」か決めて、絞って、打ち出すことが重要である。
- 観光客の誘致を移住・定住に繋げるための視点、取り組みが必要である。
- 地元の人が地域の魅力をきちんと理解し、その魅力を発信していくことができる地域にしていくことが重要。

<基本的な考え方>

- 他地域と比較し優位性のある十勝の魅力を前面に活かした情報発信が必要。
- 移住者獲得の視点を踏まえた国内観光客の誘致が必要。
- 宿泊客数の平準化を目指し、閑散期を中心に訪日外国人観光客の誘致を推進することが必要。

【具体的な施策】

- 十勝を訪れた観光客のリピーター化の推進
- 「十勝で生きること」の魅力にかかる情報の発信
- 訪日外国人観光客の誘致

### ② 観光客の利便性と満足度の向上

<委員からの主な意見>

- 団体旅行から個人旅行への移行に対する2次交通の対応が必要である。
- 外国人によるネイティブチェックなどの対応が必要である。
- タトゥーやハラールなど、日本とは異なる文化への対応が必要である。
- キャッシュレス対応の導入が遅れており、訪日外国人をはじめ観光客の需要を取りきれていない現状について、改善が必要である。

<基本的な考え方>

- 訪日外国人観光客の増加や個人化の進展に伴う観光客の多様なニーズに応える受け入れ環境整備を進める。
- 魅力ある観光コンテンツづくりを進め、観光客の満足度向上を図り、体験・滞在型観光を推進する。

【具体的な施策】

- 訪日外国人観光客の受け入れ環境の整備支援
- 旅行の個人化の進展への対応
- 体験・滞在型観光の推進
- オーバーツーリズム（観光公害）への対策

### ③移住・定住の促進による人材の確保

#### <委員からの主な意見>

- 観光客誘致による外貨獲得に加え、移住・定住促進による地域内経済循環を高めることが重要である。
- 十勝には若者にとって魅力ある仕事はあるが、うまく伝わっていない状況であり、対策が必要である。
- Iターン対策とUターン対策でターゲットと情報を届ける時期が違うと思うので使い分けをして情報発信をしたら良いのではと思う。

#### <基本的な考え方>

- 大学等への進学で帯広市を離れる若者の就職時を契機としたUターン促進に重点的に取り組む。
- 十勝の魅力あるしごとを地域内外に発信するとともに、接点を増やすことで移住・定住を促進する。

#### 【具体的な施策】

- 管外の大学生を十勝への就職に結びつけるための機会の設定
- 十勝に住む、十勝で働く魅力について、小・中・高校各段階での認知促進